

2021年7月25日

配布資料 Office Com Junto Global Session 342 回

濱田雅子の服飾講座『服飾からみた生活文化』シリーズ 20

テーマ『20世紀アメリカの女性デザイナーの知られざる真実

ーティナ・リーサの作品に見るフェアトレードと持続可能性ー』

ティナ・リーサのあゆみ

1910年12月12日 クリスティン・バフィントン (Christine Buffington) は、フィラデルフィアでメアリー・エディス・コックス (Mary Edith Cox, 1886.3.12-1954.1.7) とチャールズ・バフィントン (Charles Buffington) のもとに生まれた。母親の裕福な従兄弟であるジョージヌ・ウェザリル・シラード・スミス (Georgine Wetherill Shillard-Smith, 1873.3.2-1955.10.12) と彼女の夫チャールズ・シラード・スミス (Charles Shillard-Smith, 1864.9.10-1946.11.25) によって養子として迎えられた。

ロサンゼルス ウェストレイク・スクール・フォー・ガールズ (Westlake School for Girls)、ラホーヤのビショップ・スクール (Bishop's School)、アグネス・アーウィン・スクール (The Agnes Irwin School)、ザ・シップリー・スクール (The Shipley School)、フィラデルフィアのカーティス音楽研究所 (The Curtis Institute of Music)、そしてパリのソルボンヌ (the Sorbonne) で教育を受けた。

1929年 フィラデルフィアで社会デビュー。

1931年 カーティン・リーサ (Cartin Leser) と結婚。

1935年 ロイヤル・ハワイアン・ホテルの向かいのホノルル専門店をオープン。彼女のブティックは、私たちと同じようにハイエンドの既製服を扱っていた。

1936-1938年 カーティン・リーサと離婚。

1940年 リーサは本土に事業を拡大する。ボンウィット・テラー (Bonwit Teller) とサックス・フィフス・アベニュー (Saks Fifth Avenue) は、彼女のデザインを販売した最初の小売業者であった。

リーサは1943年まで自分のブランドで設計、製造していた。

1943-1953年 アメリカの第二次世界大戦への参入とともにニューヨークに移住。メーカー Edwin H. Foreman Sportswear Company と提携し、Tina Leser というレーベルの下でエドウィン・フォアマン (Edwin H. Foreman, 1915-1992) のためにデザインした。

1944年 「ベアブラウン・ルック」 (Bare Brown Look)

1945年 コティー・アメリカン・ファッション批評家賞 (Coty, Inc. American Fashion Critics Award) および、ニーマン・マーカス賞 (Neiman Marcus Award) を受賞。

ロング・アイランドのサンズ・ポイントにあるリーサの夏の家として使用される納屋の改修が完了する。

水着メーカー、ガーバー (Gabar) とライセンス提携。

「オリンパスの影」ギリシアコレクション。

1946年 パーク・アベニューのブロードウェイ・ステージ制作用の衣装をデザインし、アンパリッシュの小説「すべてひざまづく」の映画化のための衣装をデザインするために一時的にハリウッドに移転した。

1947年 ニューヨーク・ドレス・インスティテュートからプリンセス・エリザベスに送られたトルソーの一部として選ばれたリーサのデザイン。

ニューヨーク・ドレス・インスティテュートのクチュール・グループが最初に招待したメンバーになる。

チェイニーのメンズネクタイをデザイン。

リーサの作品は、メトロポリタン美術館のコスチューム・インスティテュートに、フランスの中世のタペストリーを基にしたファッション展の一環として登場した。

「ゴディーズ・レディーズ・ブック」コレクション

1948年 「カリプソ」コレクション。

11月 ジェームズ・ハウリー (James Howley, 1920-2012) と結婚し、ハワイ、日本、中国、トルコ、インド、タイ、ヨーロッパを訪問するグローバル・ハネムーン・ツアーに参加した。

1949年 日本のファッション・デザイナーを対象とした年次コンテストを開催。

モリニューはロンドンとパリの彼のブティックでリーサのデザインを販売した。

メーカー・シグネットのメンズネクタイ・ラインをデザイン。「世界一周」コレクション。

1950 年代初期 養母のジョージアを助け、フロリダ州クリアウォーターにベルエア・アートセンターを設立。

1950 年 「スペイン風」コレクション。

1953 年 自身のレーベル、Tina Leser Originals をリニューアル。Fashions for Industry 「女性のための労働着」ラインも立ち上げた。

1954 年 Florida Belleair Art Center で Tina-Leser Workshop と共に包装紙のラインをデザインした。

Tina Leser Workshop と組み合わせて Katzenback&Warren のために壁紙をデザインした。

1955 年 Fuller Fabric と提携して、Modern Masters Print[®]シリーズの広告キャンペーン用の衣服を製造。

彼女のデザインのためにハンドメイドのベルギーのレースを委託。

1956 年 Sports Illustrated Sportswear Design 賞を受賞。

1957 年 Schiffli Lace&Embroidery Institute からの賞と同様に、Sports Illustrated Sportswear Design 賞を受賞。

アメリカ合衆国商務省から優れた公共サービスに対して表彰される。

1958 年 ブリュッセル・ワールドフェアのアメリカのパビリオンに出展。数シーズンしか続かなかつたより良いドレスライン、クリスティーナを発売。

1959 年 日本のフジニットと提携し、カシミアニットを生産。

1960 年 フィラデルフィア・ファッション・グループから「Favorite Daughter」賞を受賞。

1961 年 アイルランドで初めてのアメリカン・ファッション展に参加。帰国時の予期しない乗り継ぎにより、ロンドンのデパートからの注文が発生する。

「フラクショナル・ファッション」コレクション。

1963 年 養女、ジョージヌ・ウェザリル・ハウリーを迎える。

1964年 ムーア芸術大学から名誉芸術博士を受賞。

彼女のレーベルからサバティカルを取ったが、ガーバー (Gabar) のスイムウェアとラウンジウェアを続けていた。

アートセンターでファッションとデザインに関するコースを教えた (現在はフロリダ区グレイフコーストアートセンターを主導)。

1966年 Tina Leser International として事業を再編。

IDEA を発売し、インドで製造されたラインでファッションに戻った。インドの製造工場の特分を半分、所有。

1968年 IDEA を廃止し、米国での製造に戻った。

1970年代後半 事業はおそらくティナ・リーサ・クチュールとして再編された。

1982年 リーサのロング・アイランドの家で、ピカソとモネの作品を含む、ほぼ 400 万ドルの美術品が銃口を向けられて、盗まれた。作品は後に回収された。

1986年1月 ロング・アイランドのサンズポイントにある彼女の家で亡くなった。リーサは夫のジム・ハウリーと娘のジョージヌ・ハーツウィッグ (ニー・ジョージヌ・ウェザリル・ハウリー) のおかげで、ここまで生きながらえたのである。

資料 濱田雅子著『20世紀アメリカの女性デザイナーの知られざる真実—アメリカ服飾社会史 続編—』(Next Publishing Authors Press、2021年4月7日) pp.71-76